ピアフィードバックを取り入れた

ライティング力向上を目指す英語授業の実践

杉江　優太
児童生徒支援コース

1.　研究の目的

近年、教育現場における課題の一つとして、英語に苦手感を抱える児童生徒の増加が挙げられる。中央教育審議会（2016）による「外国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめ」では、学習指導要領の課題として、英語を話したり、書いたりするような、コミュニケーション能力を育成するための言語活動が十分に行われていないと述べられている。以上のような現状を踏まえて、本研究では、マインドマップを用いたピアフィードバック活動が中学生のライティングにどのような影響を与えるのかを調査した。

2.　基本的な考え方

（1）ピアフィードバックの導入について

山尾（2017）は、学習におけるピアフィードバック活動の特徴として、ペアの存在を意識しながら活動を行うことで、アウトプット活動の質を上げることができると述べている。加えて、ピアフィードバック活動は、単なる知識や技能の習得だけでなく、生徒にとって自らの能力が向上しているという実感をより強める働きがあるとも述べている。以上の記述を踏まえ、本研究でも同様にピアフィードバック活動を授業に導入する。

（2）マインドマップの活用について

マインドマップは思考の表現方法の一つであり、記憶や発想のアイディアを簡単なキーワードや短いフレーズで整理をすることができ、同時に可視化することができる。よって英語学習者がライティング活動の中でマインドマップを使うことによって、与えられたトピックに対して文の構成を考えることができ、書く内容を明確にするといった利点がある。

3.　実践内容

（1）対象と実施期間

①　対象

茨城県公立X中学校　第2学年Y組 29名（男子17名、女子12名）

②　調査時期

前期：2022年5月23日　～　6月10日（授業全3回：「宿泊体験学習の思い出」）

後期：2022年9月2日　～　9月16日（授業全3回：「将来の自分にメッセージ」）

（2）実践内容

①　ピアフィードバックを用いたライティング活動の実施

授業実践では、ピアフィードバックを用いたライティング活動を2回分（計6時間）実施し、ピアフィードバック前の英作文とピアフィードバック後の英作文、それぞれの文の数、単語数をカウントし、平均値とSDの変化を調べた。1時間目は、与えられたトピックに対して、マインドマップを用いて書く内容のアイディアを日本語で膨らませ、書く内容を英語に整理させた後に、実際に

英作文を書かせた。2時間目は、1時間目に生徒が書き上げた英文を基に，ペアでフィードバックをする活動に取り組ませ、作文内容の改善を図った。3時間目には、前時に行ったピアフィードバック活動を基に、英作文を再度書かせた。その後、どの内容が膨らんだのかなど、ペアと詳しくコメントし合う活動を行った。

② 英語によるライティングに対する意識に関するアンケート調査の実施

第2学年の生徒を対象に、英語のライティングに対する意識調査を事前アンケート、事後アンケートで実施した。また両方のアンケートに加えて、ペア活動に対する自由記述を行なった。

4. 結果と考察

(1) 英作文の英文数について

前期1回目の平均英文数は5.04文、ピアフィードバック活動後2回目の平均英文数は8.19文と一人当たり平均3.15文、比率では約1.6倍に増加し、同様に後期1回目の平均英文数は5.8文、ピアフィードバック活動後2回目の平均英文数は7.84文となり、一人当たり平均2.04文、比率では約1.3倍と増加している。結果から、日本語でマインドマップを書かせ、ピアフィードバックで指摘し合う授業実践は、英文数の増加に有意に効果があるといえる。

(2) 英作文の英単語数について

前期1回目の平均英単語数は28.96語、ピアフィードバック活動後2回目の平均英単語数は46.33語と、一人あたり平均17.37語、比率で言うと約1.6倍増加し、同様に、後期1回目の平均英単語数は31.16語、ピアフィードバック活動後2回目の平均英単語数は48.08語と、一人あたり平均16.92語、比率で言うと約1.5倍増加している。結果から、日本語でマインドマップを書かせ、ピアフィードバックで指摘し合う授業実践は、英単語数の増加に有意に効果があるといえる。

(3) 意識調査の結果と考察

ライティングの自己効力感に関する結果を表4に示す。4つの質問項目において、大きく数値が変化している項目は見受けられなかった。これはピアフィードバック活動を通じて多くの英作文に多く触れ、分自身のライティングと他者のライティングを比べたことで、自己の課題点に対する気づくことが多かったことが要因だと考えられる。

5. 研究成果と課題

本実践研究により、英作文の英文数と英単語数に関して、1回目から2回目にかけて有意に増加したことから、対象の中学生にマインドマップを書かせ、ピアフィードバックを相互に行うライティング活動の実践は、英文数だけでなく英単語を有意に増加させることが示された。

本研究を通して今後の課題となる点が見られた。ピアフィードバック活動におけるペア編成である。学力差や人間関係によって活動中にコミュニケーションを取れていない生徒が見られたため、グループ活動など、活動形態の検討が必要となるだろう。また、長期的にピアフィードバック活動を継続し、英語のライティングや英語学習自体に対して、どのような意識の変化が見られるのか調査する必要がある。

6. 参考文献

(1) 中央教育審議会 (2016).「外国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめ」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/058/siryo/attach/1365080.htm

(2) 山尾晃平 (2017). 学習効果を実感させ，生徒の自己効力感 を高める授業:ピア・フィードバック活動を通して英語学習への志向性を高める 東京学芸大学教職大学院 年報，6，109-120.